

2025年 ノース場ホッケ新規加入量調査速報（2）

北海道立総合研究機構稚内水産試験場調査研究部 黒川大智 電話：0162-32-7166

- ・魚探調査における魚群数は昨年より多い
- ・2025年級の加入豊度は2020年級並の可能性

稚内水試では、毎年10月と11月の2回、稚内ノース場海域（図1）において、試験調査船北洋丸による計量魚群探知機調査と着底トロール調査（原則6回曳網）を実施しています。本速報では、2025年11月6日および15日に実施した第2回調査の結果を示し、10・11月の結果を踏まえて現時点の豊度を推定しました。なお、荒天のためトロール調査は3回のみの実施となりました。

計量魚探調査およびトロール調査結果

- ・魚探調査で発見された魚群数は21で、昨年より多く発見されました（図1、図2）。
- ・トロール調査で漁獲されたホッケは、海区813で0歳（ローソクボッケ）主体、811で1歳主体でした。
- ・ローソクボッケの平均体長は189.4mmで、2021・22年よりも小さい傾向がありました（図3）。

2025年級の加入豊度について

魚探調査で観察されたホッケ魚群の数と加入尾数との間には正の相関があります（図2）。この関係から加入豊度を推定すると、2020年級並となります。一方で、トロール調査の結果から「北側」の調査ラインで発見された魚群は1歳主体であることが示唆され、加入豊度を過大評価している可能性があります。

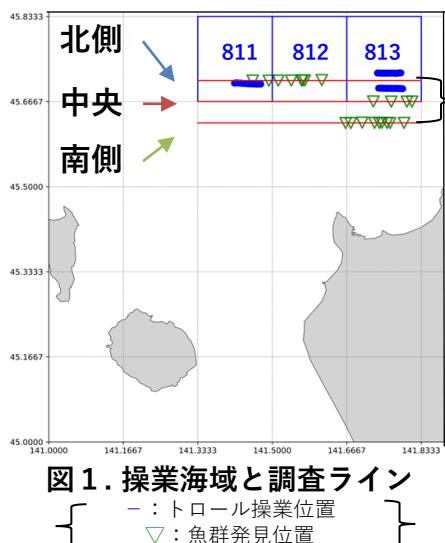


図1. 操業海域と調査ライン
— : トロール操業位置
▽ : 魚群発見位置

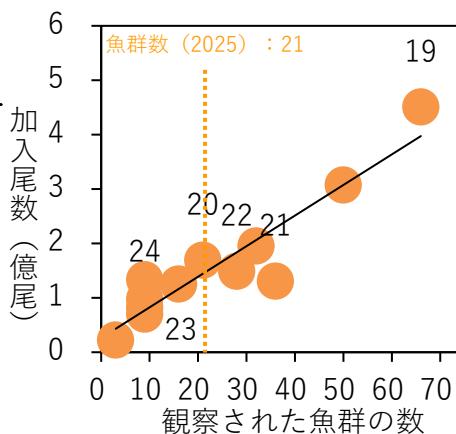


図2. 発見された魚群数（11月）
と加入尾数の推移

まとめ

魚探調査における魚群数は21となり、昨年より多く発見されました。漁獲物の年齢組成は0歳が主体で、これらは海区813で多く漁獲されました。一方で海区811では1歳以上のホッケ主体の漁獲となりました。ローソクボッケの体長は、平均189.4mmで、過去平均よりも小さい傾向がありました。

魚探調査における魚群数から2025年級の加入豊度を予測すると2020年級並となります。一方で、海区811で1歳主体の漁獲があつたことなどを考慮すると、北側の航走ラインにおける魚群は1歳主体であることが示唆され、予測された加入豊度を下回る可能性があることに注意が必要です。

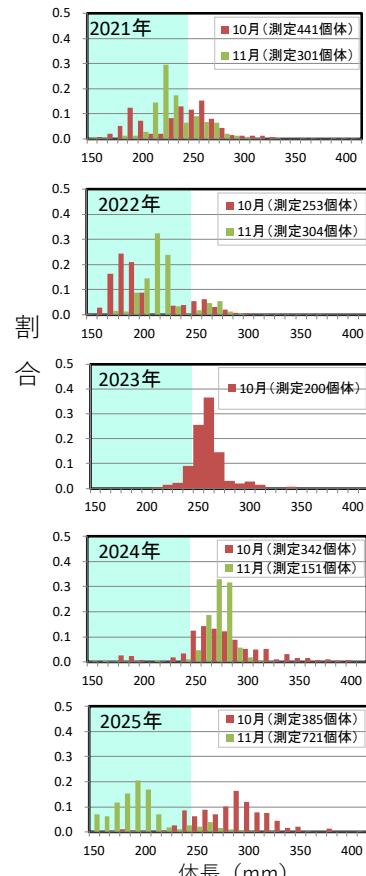


図3. 採集したホッケの体長組成
(水色部分はローソクボッケを示す)